

## 研究計画書

### 1 研究テーマ

「近畿圏の都市サステナビリティの指標づくりに関する研究」

### 2 内容

わが国では、すでに都市部人口が地方部を上回って久しいが、今世紀になり、人類史上初めて世界の都市人口が地方を超えると国連により推計されている。一方、世界の都市は陸地面積の 2% を占めるに過ぎないが、天然資源の 75% が都市で消費されている。この結果、地球環境問題の原因となる、地球温暖化ガスや廃棄物、有害物質が都市から大量に排出されている。

こうした国内外の人口分布や天然資源消費の動向、地球環境問題の深刻さを考慮すると、都市に対する環境保全や資源供給の制約がますます厳しくなり、これまでの都市の成長・管理の考えや方策にもとづく対応では、都市の持続性に限界を迎えることが予想される。このため持続可能な都市への構造転換、都市の土地利用計画の再編が本格的に取り組む時期を迎えているといえる。

本研究は、個性的な都市が多核分散する近畿圏の都市を研究対象として選び、これら既存都市が消費型から環境型へと移行していく、都市全体の変化プロセスの視点より都市サステナビリティを定量的に診断するための指標づくりについて体系的に研究し、都市サステナビリティの評価を試みる内容である。

### 3 メンバー

- (1) 寺本 光雄 太成学院大学 総合経営学部 教授
- (2) 若井 郁次郎 大阪産業大学 人間環境学部 教授
- (3) 小幡 範雄 立命館大学 政策科学部 教授

### 4 期待される効果

都市サステナビリティの研究は、大量消費を前提とした消費型都市から環境順応型都市への発想転換を支えるための基礎的研究であり、今後の都市の生存を思慮する都市研究の方向性を示す効果が期待される。